

と疑問に答えて⑤

◆ 何も知らない子どもたち
に同和教育をするから、差別がなくなるのではないのでしょうか? (その三)

・差別の鎖を断ち切るために
「子どもたちは本当に何も知らないのでしょうか?」

「祖母は、家に友達が来ると、必ず住所を聞く、それもしつこく。そして、『あの子は部落やき、あまりつきおうたらいかん』という……」

「先日、被差別部落の近くを母といっしょに歩いていたら、『ここらへんにはあまり来たらいかん、こわい』と言われた。私はびっくりした。ふだんは、『誰とでも仲良うさにやいかん』といつも言っている母が……と悲しくなりました」

「ある日、父が酔っぱらって帰って来て、どうしてそういう話になったのか覚えていないが、『部落の人と結婚し

たらいかん、許さん』と言った。僕はそのような事を父から聞いたのは初めてだったので、びっくりした」

これらの文章は、高校三年生の生徒たちが書いた作文の一部です。このような例は、決して少なくはないのです。

一昨年、文部省は、小・中・高における部落差別事例をあげ、その背景や取り組み方などを示した道徳を、初めて出しました。

同和教育シリーズ

次のような小学校五年生の事例をあげています。

(事例)

「A子がB子に『明日は私の誕生日だから遊びにおいてよ』と誘った。それを聞いてC子が『私も行っていい』と聞くと、A子はC子に『あなたは駄目なの、おばあちゃんに部活の人は絶対呼んではいけない』と言ってるから」と答

えた。これを聞いたC子は大きな衝撃をうけ、まだこんなひどいことがあることを知って、ほんとうにこわくなったと言っていた」

文部省はこのなかで、まずこのような差別事例の背景には、父母や家族、ひいては地域社会の根深い差別意識があると分析しています。

これを解決するためには、学校での同和教育をしつかりすすめるとともに、子どもたちを取りまく家族や地域の人びとに対する教育もきちんと行う必要があると強く指摘しています。そして、各学級や自治体が、具体的な教育計画をたて、実行するよう要望しています。

差別意識は、親から子、孫へとさまざまな形で伝えられています。この「差別の鎖」を断ち切るため、何も知らない純真な心をもっている時代にこそ、正しい同和教育が必要なのです。



国体競技種別決まる

平成十四年に高知県で開催される第五十七回国民体育大会(高知国体)について、県国体準備委員会は、昨年五月に競技別会場市町村を決めていきました。このほど正式な競技種別を決定し発表しました。

発表によると、南国市では秋季大会で、少年男子のサッカー、全種別のバドミントン、少年女子のバスケットボール、イフル射撃C.P.となっています。競技施設については、バスケットボールは高知農業高校と岡豊高校の体育館、ライフル射撃C.P.は県警察学校射撃場で、バドミントンは、市環境センター周辺に建設予定の市総合体育館

で、またサッカーについては南郡総合運動広場の多目的グラウンドと、浜改田流通業務団地内に建設予定のなんごくスポーツパーク(仮称)の多目的グラウンドの使用を県に提案し協議中です。

平成八年度は、高知国体開催に向けた競技施設の整備状況など開催準備を円滑に進めるため、中央競技団体の正規視察が順次予定されています。国体は、県内で開催するイベントとしては過去最大のスケールで、二十一世紀をにらんだ県民あげての行事です。



○心身障害児に対して、教育内容の充実や、社会的自立に向けた指導・援助の充実
○教職員の資質の向上に努め、児童生徒の個性や能力を伸ばす指導
○学校週五日制の導入にとりも、その条件整備と学校開放の推進

○差別のない社会の実現に向けて努力する市民の育成
○同和問題の解決に向けて、就労対策の推進、企業に対する同和問題の研修の推進の強化

(三) 交流

○まち、はものや人の交流を通じて活性化します。他市・他県さらには国際交流によって、わがまちに對する思い入れが深まります。二十一世紀に向けて、南国市と近隣との広域的な交流だけではなく、より多くの機会を増やしていきます。

(二) 人種

○部落差別・人種差別・性差別・いじめなどの差別が現存しています。このような差別を啓蒙や交流を深めることによって、解消していきます。

○行政・学校・地域・関係諸団体との連携を深めることによる総合的な同和教育の推進

○市民や各種団体によるスポーツ・文化など多様な交流活動を通じての姉妹都市・自治体との友好
○高速交通体系の発展にもなう広域的な情報・文化の交流
○外国人留学生・研修生などとの積極的な参加
○多世代間交流による地域社会教育の推進を図ることによる年代を超えた交流

土佐のまほろば あったか南国市 ⑤



十大基本目標 シリーズ③

まほろばづくり

土佐のまほろばを再生・創造することによって、豊かな人間性や心を育て、時代にマッチした人づくりを目指します。そして、南国市の自慢は「キラリ輝くまほろばびと」であるよう、なまちづくりを推進します。

(一) 生涯学習

人々の個性や能力を伸ばすための学習機会を設け、生涯学習の場を充実することにより、市民が南国市に愛着をもち、生き生きと活躍できるまちづくりを推進

- ① 社会教育
 - 学・社の連携を図り、生涯学習の体系化と社会教育推進体制の強化
 - 文化センターの建設や公民館・集会所の整備、充実
 - 生きがいを持つような高齢者教育の充実
 - 青少年に対する社会教育の充実と健全育成活動の強化
- ② 人材バンクへの登録活用に向けての周知
- ③ 家庭教育
 - 家族みんなの笑顔による子どもたちの育成
 - 望ましい家庭教育活動の推進
 - 生活・教育相談の充実により、健全な家庭づくりの推進
- ④ 学校教育
 - 創意を生かした教育活動を進め、特色のある学校づくりの充実
 - 地域社会との連携を図り、地域ぐるみによる指導体制の推進